

東北大学法科大学院教員紹介（専任教員）

成瀬 幸典 NARUSE Yukinori

学歴等				
年月	事項			
平成 4 年 3 月	東北大学法学部卒業 学士（法学）			
職歴				
年月	事項			
平成 4 年 4 月 平成 9 年 4 月 平成 12 年 4 月 平成 19 年 4 月 平成 20 年 8 月	東北大学法学部助手（～平成 9 年 3 月） 東北大学法学部助教授（～平成 12 年 3 月） 東北大学大学院法学研究科助教授（～平成 19 年 3 月） 東北大学大学院法学研究科准教授（～平成 20 年 7 月） 東北大学大学院法学研究科教授（現在に至る。）			
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	備考
[著書]				
1. 刑事法学の潮流と展望—大野真義先生古稀祝賀	共著	平成 12 年 10 月	世界思想社	(117 頁～138 頁) 総頁数 624 頁
2. 情報技術と社会	共著	平成 14 年 10 月	東北大学出版会	(157 頁～170 頁) 総頁数 187 頁
3. 刑事法学の現代的課題—阿部純二先生古稀祝賀論文集	単著	平成 16 年 3 月	第一法規	(355 頁～378 頁) 総頁数 694 頁
4. 刑法判例演習	共著	平成 16 年 7 月	北樹出版	(187 頁～201 頁) 総頁数 233 頁
5. アクチュアル刑法総論	共著	平成 17 年 4 月	弘文堂	(142 頁～217 頁) 総頁数 345 頁

6. 民主主義法学・刑事法学の展望(下)——小田中聰樹先生古稀記念論文集	共著	平成 17 年 12 月	日本評論社	(171 頁～198 頁) 総頁数 595 頁
7. セクシュアリティと法	共著	平成 18 年 3 月	東北大学出版会	(251 頁～274 頁) 総数 437 頁
8. 学習コンメンタール刑法	共著	平成 19 年 4 月	日本評論社	(234 頁～249 頁、261 頁～264 頁)総頁数 456 頁
9. アクチュアル刑法各論	共著	平成 19 年 4 月	弘文堂	(341 頁～409 頁)総頁数 549 頁
10. 判例プラクティス刑法(1)——総論	編著	平成 22 年 1 月	信山社	(4 頁～5 頁、35 頁～39 頁、112 頁～113 頁、147 頁～168 頁、173 頁～174 頁、198 頁～199 頁)総頁数 479 頁
11. 判例プラクティス刑法(2)——各論	編著	平成 24 年 3 月	信山社	(101 頁、109 頁～110 頁、129 頁、385 頁、431 頁～452 頁)総頁数 558 頁

[論文]

1. 文書偽造罪の史的考察(一)～(三・完)	単著	平成 8 年 4 月 平成 8 年 6 月 平成 8 年 12 月	法学 法学 法学	法学 60 巻 1 号(123 頁～172 頁) 法学 60 巻 2 号(94 頁～150 頁) 法学 60 巻 5 号(110 頁～160 頁)
2. 公用文書毀棄罪について	単著	平成 11 年 1 月	法学	法学 62 巻 6 号(213 頁～250 頁)
3. 刑法における文書概念についての一考察(一)	単著	平成 12 年 10 月	法学	法学 64 巻 4 号(1 頁～35 頁)
4. 刑法の争点(第 3 版)	共著	平成 12 年 11 月	有斐閣	(220 頁～221 頁)
5. 刑法における文書概念についての一考察(二・完)	単著	平成 12 年 12 月	法学	法学 64 巻 5 号(1 頁～36 頁)
6. 名義人の承諾と文書偽造罪(一)	単著	平成 15 年 4 月	法学	法学 67 巻 1 号(1 頁～38 頁)
7. 名義人の承諾と文書偽造罪(二)	単著	平成 15 年 8 月	法学	67 巻 3 号(1 頁～39 頁)
8. 正犯・共犯	単著	平成 16 年 1 月	法学教室	280 巻(79 頁～85 頁)
9. 因果	単著	平成 17 年 4 月	法学セミナー	605 号(38 頁～39 頁)

10. 名義人の承諾と文書偽造罪(三)	単著	平成 18 年 1 月	法学	69 巻 5 号(33 頁～66 頁)
11. 名義人の承諾と文書偽造罪(四)	単著	平成 19 年 4 月	法学	71 巻 1 号(1 頁 34 頁)
12. 刑法の争点(第 4 版)	共著	平成 19 年 10 月	有斐閣	(226 頁～227 頁)
13. 名義人の承諾と文書偽造罪(五)	単著	平成 21 年 6 月	法学	73 巻 2 号(1 頁～35 頁)
14. 量的過剰に関する一考察(一)	単著	平成 22 年 4 月	法学	74 巻 1 号(1 頁～40 頁)
15. 量的過剰に関する一考察(二・完)	単著	平成 24 年 1 月	法学	75 巻 6 号(48 頁～80 頁)
[判例研究・判例解説]				
1. 刑法判例百選 I (第 5 版)	共著	平成 15 年 4 月	有斐閣	(16 頁～17 頁)
2. 刑法判例百選 II (第 5 版)	共著	平成 15 年 4 月	有斐閣	(176 頁～177 頁)
3. 刑事判例研究	単著	平成 16 年 6 月	法学教室	285 巻(84 頁～85 頁)
4. 刑事判例研究	単著	平成 17 年 6 月	法学	69 巻 2 号(95 頁～104 頁)
5. 刑事判例研究	単著	平成 18 年 7 月	ジュリスト	1316 号(184 頁～187 頁)
6. 刑法判例百選 I 総論(第 6 版)	共著	平成 20 年 2 月	有斐閣	(72 頁～73 頁)
7. 刑法判例百選 II 各論(第 6 版)	共著	平成 20 年 3 月	有斐閣	(24 頁～25 頁)
8. 量的過剰防衛が否定された事例	単著	平成 21 年 3 月	判例セレクト 2008 [月刊法学教室 342 別冊付録]	(29 頁)(平成 20. 6. 25 最高一小決)
9. 北海道開発庁長官の職務と賄賂罪における職務関連性	単著	平成 23 年 4 月	ジュリスト 1420 号(平成 22 年度重要判例解説)	(216 頁～217 頁)(平成 22. 9. 7 最高一小決)
10. 刑事判例研究 一連の行為につき、全体的考察により、1 個の過剰防衛としての傷害罪の成立が認められた事例	単著	平成 23 年 10 月	法学	75 巻 4 号(54 頁～65 頁)(平成 21. 2. 24 最高一小決)
11. 刑事判例研究 148 量的過剰防衛の成立が否定された事例	単著	平成 24 年 5 月	論究ジュリスト	1 号(217 頁～222 頁)(平成 20. 6. 25 最高一小決)
12. 刑事裁判例批評 209 トラックのハブが走行中に輪切り破損したために前輪タイヤ等が脱落し、歩行者らを死傷させた事故について、同トラックの製造会社で品質保証業務に従事していた者に、同種のハブを装備した	単著	平成 24 年 8 月	刑事法ジャーナル	33 号(122 頁～128 頁)(平成 24. 2. 8 最高三小決)

車両につき、改善措置の実施のために必要な措置を採るべき業務上の注意義務が認められると同時に、当該注意義務違反行為と上記事故との間の因果関係が認められた事例				
[コンメンタール・辞書]				
1. 改正刑法(別冊法学セミナー基本法コンメンタール[第二版補訂版])	共著	平成 14 年 9 月	日本評論社	(206 頁～211 頁) 総頁数 328 頁
2. 刑法(別冊法学セミナー基本法コンメンタール[第 3 版])	共著	平成 19 年 5 月	日本評論社	(214 頁～219 頁、308 頁～312 頁)
3. 新基本法コンメンタール刑法	共著	平成 24 年 9 月	日本評論社	(161 頁～164 頁、320 頁～338 頁)
4. 新コンメンタール刑法	共著	平成 25 年 3 月	日本評論社	(263 頁～279 頁、292 頁～295 頁)
学会及び社会における活動等				
年月	事項			
平成 10 年 4 月	広南病院治験等審査委員会委員(～平成 15 年 3 月)			
平成 11 年 4 月	仙台市感染症審査協議会委員(～平成 13 年 3 月)			
平成 14 年 5 月	日本刑法学会(現在に至る。)			
平成 14 年 10 月	宮城県個人情報保護審査会委員(～平成 21 年 3 月)			
平成 20 年 1 月	仙台市入札等監視委員会委員(現在に至る)			
平成 23 年 4 月	仙台弁護士会懲戒委員会委員(現在に至る)			
平成 25 年 5 月	大学評価・学位授与機構法科大学院認証評価委員会専門委員(現在に至る)			
平成 22 年 6 月	平成 22 年新司法試験考査委員(～平成 22 年 10 月)			
平成 23 年 6 月	平成 23 年新司法試験考査委員(～平成 23 年 10 月)			
平成 24 年 6 月	平成 24 年新司法試験考査委員(～平成 24 年 10 月)			